

安曇野市新総合体育館建設工事
総合評価落札方式

審査結果報告書

令和元年 9月 9日

安曇野市新総合体育館建設工事総合評価審査委員会

1 審査結果

安曇野市新総合体育館建設工事総合評価落札方式について、入札参加者から提出された技術提案書等について技術対話を実施し、技術対話の内容と質疑応答を含め、技術提案書等を審査委員会において公平で厳正かつ慎重な審議を行った結果、次のとおり落札候補者を決定しました。

落札候補者 竹中・守谷特定建設工事共同企業体 : 88.08 点
次点者 大林・岡谷特定建設工事共同企業体 : 83.26 点
※最大得点（満点）は100点

2 審査委員会の構成（敬称略）

委員役職	所 属	氏 名
審査委員長	国立大学法人信州大学工学部名誉教授 博士 一級建築士	高木 直樹
審査副委員長	国立大学法人信州大学工学部建築学科准教授 博士 一級建築士	羽藤 広輔
審査委員	国土交通省関東地方整備局 長野営繕事務所長	大谷 信広
審査委員	長野県松本建設事務所 建築課長	塚田 昌宏
審査委員	公益社団法人長野県建築士会 名誉会長 (株)フジ設計 代表取締役	場々 洋介

3 選定までの経緯

期 日	内 容
平成31年3月26日	第1回審査委員会 ①委員委嘱 ②入札スケジュールの確認 ③実施要領の承認 ④技術提案評価基準の承認
令和元年5月7日	入札公告
令和元年5月20日	参加資格確認申請書の提出期限（2者提出）
令和元年5月24日	参加資格確認通知（2者承認）
令和元年7月19日	技術提案等の提出期限（2者提出）

令和元年 7 月 26 日	第 2 回審査委員会 ①概算工事見積価格の確認 ②V E 提案採否案の確認 ③技術評価案の確認 ④技術対話項目の確認
令和元年 7 月 31 日	第 3 回審査委員会 ①技術対話（ヒアリング） ②V E 提案採否の決定
令和元年 8 月 5 日	V E 提案書採否通知
令和元年 8 月 26 日	条件付き V E 提案書の提出期限
令和元年 9 月 9 日	第 4 回審査委員会 ①総合評価点の確認 ②落札候補者の決定

4 講評

安曇野市新総合体育館建設工事総合評価審査委員会は、入札参加者名を匿名とし、公平で厳正な審査を行った。その審査講評を以下に記します。

(1) 総評

安曇野市新総合体育館整備においては、事業スケジュールを遅延することなく、かつ事業費内での体育館の建設を確実なものとするのが重要であった。そこで、施工者の立場から高度な技術提案および技術協力を実施設計に取り入れるため、新総合体育館の施工者選定に際し、契約方式として設計協力付施工一括発注方式を導入することとし、総合評価落札方式により施工者を早期に決定するとともに、実施設計の過程に施工者の技術協力を仰ぐことで、価格と品質のバランスを確保できることを重要視して審査を行った。

総合評価落札方式では、実施体制、高度で専門的な技術や工法、安全性確保、安曇野市内の事業者の活用に関する提案や V E 提案等を求め、実施設計において市や設計者と協働し、提案内容等を反映することのできる意欲のある入札参加者を、技術対話も行い評価を行った。各入札参加者から提出された技術提案書等は、基本設計内容をよく理解し、いずれも独自の考えと実績に基づいて提案されており、各参加者の知識、経験、技術の高さが生かされた特色ある内容であった。

(2) 個別評価

落札候補者及び次点者の順に特筆すべき評価事項を記載する。

① 落札候補者：竹中・守谷特定建設工事共同企業体

【技術協力業務の実施方法・実施体制】

- ・技術協力業務実施に取り組むにあたって、「精度評価」による精度の見える化、精度の低い箇所に対するリスクヘッジ確保のための追加VE時期の提案、コストモニタリングによるコスト管理など、発注者の意図を十分に踏まえた方針としている点を評価した。

【施工時の実施方法・実施体制】

- ・コスト管理と施工時の対応の体制が十分確保されている点を評価した。
- ・VE提案の反映等を十分に見込んだうえで、部材等の発注時期、着工時期を設定しており、技術協力業務を含めた全体の業務内容について十分に理解していた点を評価した。

【施工・工程計画についての提案】

- ・VE提案に対して、十分な検証を基に工程計画を練られていた点を評価した。
- ・屋根の施工に対する精度の高い品質管理の提案を評価した。

【施工上の課題に対する技術的所見】

- ・騒音、振動シミュレーションを活用した重機配置計画や周囲の農業用水に対する雨水等の流出抑制、中部電力の鉄塔に対する配慮など、近隣に対する配慮が十分になされていた点を評価した。

【安曇野市内事業者の活用に関する提案】

- ・実際に市内企業と面談のうえ発注目標金額を設定しているなど、提示金額の根拠が明確な点を評価した。

② 次点者：大林・岡谷特定建設工事共同企業体

【技術協力業務の実施方法・実施体制】

- ・コスト管理の意識を持ち、技術協力業務の実施体制において類似実績が豊富な技術協力チームを編成する点を評価した。

【施工時の実施方法・実施体制】

- ・ISO9001に基づく品質管理と県内事業者とのネットワークを構成する提案を評価した。

【施工・工程計画についての提案】

- ・4週8閉所を完全実施しながらも竣工予定日に対して50日の工期短縮する提案により、市の防災訓練までにオープンできる点で評価した。

【施工上の課題に対する技術的所見】

- ・屋根トラス鉄骨梁の施工精度の確保の具体的提案、サブアーリーナの具体的な施工計画の提案、中部電力の鉄塔に対する配慮など、課題に対する施工計画の提案が明確であった点を評価した。

【安曇野市内事業者の活用に関する提案】

- ・技術力向上のための教育プログラムの実施や、現場見学・施工体制学習会の開催、インターンシップの受け入れ等、活動が多岐にわたり地元貢献・地元還元意識が強い点を評価した。

最後に、入札公告から入札までの約4ヶ月と限られた期間内で、入札参加者から創意工夫を凝らした多様なご提案を頂き、その熱意とご尽力に審査委員会として敬意を払うとともに感謝申し上げます。

今後は、安曇野市および実施設計者並びに落札決定者の3者で協働し、本総合評価落札方式において提案された技術提案及びVE提案に留まることなく、更なる技術的及び経済的提案がされることを期待し、本事業が成功されることを心より祈念致します。

令和元年9月9日

安曇野市新総合体育館建設工事総合評価審査委員会
委員長 高木直樹